

2月12日 出雲市塩冶コミュニティセンターで 「ブラジル人・日本人交流の集い」を開催!

2月12日(日)午前10時、コミセン研修室で開会セレモニーを始める。地区住民、出雲市ブラジル交流員や塩冶国際交流クラブ、NPOエスペランサ関係など、まだ14人しか集まっていない。開会后、ブラジル国旗の前でブラジル人交流員がクイズ形式でブラジルの国や生活など紹介される。地区自治協会長などが食い入るように見つめておられ、また、自主参加の夫婦や、親戚がブラジルに住んでいるご婦人など真剣に聞いておられる。



そして、隣の調理室がにぎやかになり、ブラジルから島根に来ているブラジル人8人が登場され、ブラジル料理店のエルザさんの指導により、ブラジルの餃子、パステウをみんなで作る。シートに包まれた皮をはさみで四角に切り、その中に具を入れてできた生パステウを油で揚げていく。自治協会長も笑顔で取り組んでおられる。その後、ブラジル料理店から食事が届けられ昼食が始まる。肉の炒め物、コロッケを丸くした揚げ物、さっきのパステウなど皿のご飯の上において、みんなおいしく食べている。食事後、松江から参加されたペドロさんがブラジルの農産物を紹介される。松江の自分の畑で栽培された大きなズッキーニ、ココナッツで作った砂糖漬け、ブラジルの大きなかぼちゃで作ったお菓子など、実物があるから分かりやすかった。

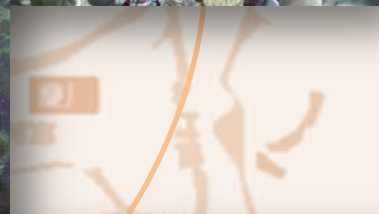


その後、ブラジルの遊びや日本の遊びを実地にしようとしたが盛り沢山の行事のために説明だけとした。終了後、参加者は「ブラジルはリオのカーニバルぐらいは知っていた。今日は料理や日本でも栽培できる農産物の話もあり、ブラジルに親しみが出て来た。また参加したい」と話された。NPOエスペランサと塩冶国際交流クラブの協力で、にぎやかな交流会となりました。

(塩冶コミュニティセンター 坂本センター長)

出雲地方に多く残る北東アジア交流史跡 ～これからの友好交流の糧に！

さわやかな秋空の下、30人の市民が
出雲地方各地で北東アジア交流史を学ぶ



NPO法人エスペランサは10月30日と11月3日の2回にわたり、出雲地方に残る「北東アジア（朝鮮半島やロシア）との交流史跡を訪ねる小さな旅」を実施したところ、30人の皆様に参加いただきました。

●韓竈神社～ロシア水兵墓地（十六島）

当日は平田の鰐淵コミュニティセンター前に集合し、5～6台の自家用車に分乗し、途中から川沿いの狭い道を上ると韓竈神社（からかまじんじゃ）下の駐車場へ到着。そして入口の鳥居をくぐり、険しい山道を登り、最後に大岩の裂け目をくぐると神社に到着。参加者の目的がこの神社へ上ること。多くの人が記念撮影。

休むまもなく次の地、十六島（うつぶるい）にあ

る、日ロ戦争時の日本海海戦により、流れ着いたロシア水兵が手厚く葬られている墓地で、地元の三原さんから説明を受ける。

●田儀・本願寺～伽夜堂

午後は多伎町へ移動。田儀の本願寺で住職から島根県文化財である朝鮮半島の高麗国へ出かけて修行された開祖が持ち帰られた仏像や当時の朝鮮半島の仏教の話などを興味深くお聞きした。

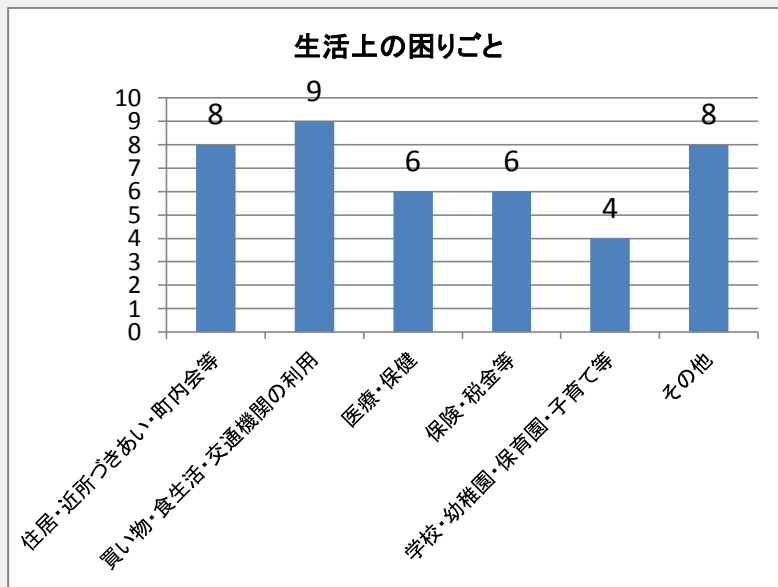
最後に、多伎中学校裏にある朝鮮式建屋の伽夜堂を見学。地元集落の方からこの堂の説明を聞く。この堂は華蔵寺所有だが保存費の確保に悩んでいる・・・この伽夜堂と韓国南部の伽夜堂の関係を想う・・・今回の取り組みで北東アジア友好拡大を考える。（江角）

誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざして

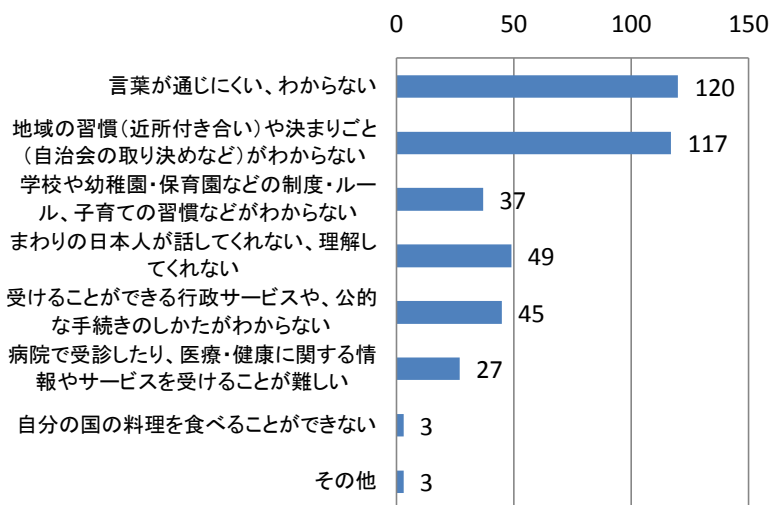
～「地域に暮らす外国人の生活調査」中間報告②～

NPO 法人エスペランサでは、言葉、習慣、価値観などのちがいを超えて共に安心して暮らせる街づくりへの第一歩として、一昨年10月から昨年3月にかけて、外国人住民に対する聞き取り調査と、外国人住民に対する受入れ社会の住民の意識調査（アンケート）を実施しました。今回はその中間報告の第2回目をお送りします。

まず、外国人住民の方々に対して、生活上どんな困りごとがあるかをお聞きしたところ、約半数の方が、何らかの困りごとがあると回答されました。



5. あなたは、外国人住民が、地域で暮らすにあたって、どんなことに難しさを感じていると思いますか？ (回答は、特に難しさを感じていると思うものを3つまで)



受入れ社会の方々、漠然と「言葉が通じないこと」ととらえているのに対し、外国人住民の方々は、実際の生活の中で、言葉はもちろん、習慣や価値観の違いなどによる様々な困難を感じ、具体的に回答していました。ふだん当たり前と知っていることも、異なる文化から見れば「困難」となる…。それが何であるのか、互いに声を聞き合い、相手の立場や視点を知ることによって、一つ一つ気づいていくことが、皆が安心して暮らせる地域社会への第一歩ではないでしょうか。(堀西)

困りごとは生活全般にわたっていますが、「住居・近所つきあい・町内会等」については、ごみの分別の問題、「買い物・食生活・交通機関の利用」については、車（免許）がなく買い物や通勤が不便、といった回答が比較的多くみられました。また、学校や幼稚園のお便りが読めない、と答えた方もいらっしゃいました。

一方、受入れ社会の住民の方々に、外国人住民が地域生活でどんなことに難しさを感じているかをお聞きしたところ、「言葉が通じにくい」ことと「地域社会の習慣などがわからない」という回答が多数を占めました。

* 会員募集のご案内 *

NPO法人エスペランサでは、下記のとおり会員を募集しています。多様な文化背景をもつ人たちが共に安心して暮らせる地域づくりを、ぜひいっしょに進めませんか？

■ 正会員 年会費：個人2,000円
団体3,000円

■ 賛助会員 年会費：個人1,000円/1口
団体2,000円/1口

* ご関心のある方は、表紙右上の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

サボローゾ 通信

2年間ありがとうございました！ ～サボローゾ、パラオでの営業を終了～



ブラジル料理店「サボローゾ」は、2010年2月のオープン以来、本当にたくさんの方々にご来店いただき、おかげさまで今年2月20日に開店2周年を迎えることができました。

しかし、その矢先の2月29日、入店させていただいていたショッピングセンター「パラオ」の閉鎖が決定しました。これに伴い、「サボローゾ」は3月4日をもって、パラオにおける営業を終了させていただくこととなりました。オープンからの2年間、

皆さまから様々な形でご支援・ご協力をいただき、ここまで営業を続けさせていただけたことを、スタッフ一同からお礼申し上げますとともに、多くのお客様にご心配、ご迷惑をおかけしていますことを、深くお詫びいたします。大変ありがたいことに、たくさんの方々から「ぜひ再開を！」と励ましのお声をいただいています。スタッフも皆、再開への意欲を持ち続け、新たな「サボローゾ」の出発に向け、現在検討・準備を進めているところです。これからも「サボローゾ」は、ブラジルの方々を始め、地域の皆さんの交流の場、働く場、そして心地良い「居場所」であり続けたいと思っておりますので、どうか応援よろしく願いいたします！（堀西）



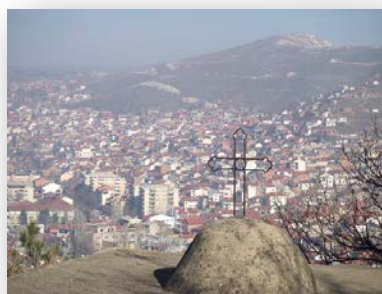
～初めて訪れた異国～ マケドニア Македонија (その②)



スコピエから約42km 離れ、ヴァルダル川沿いに位置するマケドニア共和国中部の町ヴェレスは文学、文化、歴史、伝統の町であり、多くの文化遺産や古い聖堂が残されている。人口が約55,340人。とても古い町だが大きなバザーで賑わっており、色々な果物、野菜やオリーブなど数多くそろっており、可愛い陶器なども売られている。



バザー周辺の道路にも多くの方が手編みの靴下など、様々な物を売っている。坂の多い町で、丘の上にある教会から眺める景色は飽きることがないほどの美しさ。オレンジ色の屋根と周



りの山に癒される。

家族経営をされている小さなかわいいお土産屋を発見。商品は全てお店の人の手作りでお土産も買うことができるし、試着させてもらうこともできる。商品は全てかわいく、お店の人もみんなすごくフレンドリー。真っ赤な夕日に包まれる町の風景も絶景。（野井）